

いつもと変わらない

一日のために

平和新聞



姫百合学徒隊

ひめゆり
学徒隊とは

一九九四年十二月に沖縄県で日本軍加中心と成って行った看護訓練によって作られた女子学徒隊のうち、沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等学校の教師・生徒で構成されたもので、名前の「ひめゆり」とは、沖縄県立高等学校の学校広報紙の名前「てびく」と沖縄師範学校女子部の学校広報紙の名前「白百合」を合わせて「姫百合」となった。

沖縄戦の流れ

6月23日	5月下旬	5月11日	4月20日	4月16?21日	4月13日	4月1日	3月26日	3月下旬
牛島司令官の自決により、組織的な戦闘は終了	沖縄守備軍、首里の司令を捨て、島の南へ撤退	米軍、首里城の軍司令部への総攻撃を開始	米軍、本部半島を制圧	米軍、伊江島を攻撃・占領	米軍、辺戸岬に到着	米軍、本島中部の読谷嘉手原に上陸	米軍、慶良間列島で上陸作戦決行	米軍、沖縄に進攻開始

令和3年
宜野湾市平和大使
普天間中学校
1年 小橋川菜夏

私の思う平和

私かと思う平和とは、紛争・差別・貧困などのない、みんなが平等に暮らせる世の中のことだと思えます。しかし、戦争が終わった今でも、私たちのような裕福な暮らしができていない人もいます。そんな人たちに私たちにできることは、少しのお金でも募金することだと思います。

昭和二十年春、沖縄戦の戦いに際して、京都府出身の将兵二五三十有余の人々が、砲撃の雨の中に倒れた。星霜十九年を経て、今この悲しみの地に、と水らの人々との御冥福を祈るため、京都府市民によって「京都の塔」建立とされるにいたった。沖縄と京都とを結ぶ文化と友好の絆がますますよすがたえらるようこの塔に切なる願いをよせるものである。

京都の塔



トーチカとは、大砲や機関銃などを置くための場所を、分厚いコンクリートで築いた陣地のことです。宜野湾市では、ここ嘉数高台にしか残っていない。トーチカは北側に向けて2箇所、南側に向けて1箇所、開口部があります。また、トーチカ北側は、南側に比べ、壁が厚く、えぐら水、中に埋められた鉄筋が飛び出して見えます。これは米軍の攻撃を受けたためだと思われ、南側の開口部は兵士が出入りするのためのものであったようです。

陣地壕



陣地壕とは、日本軍が陣地を構えるために掘った、軍事用の人工壕である。日本軍はこのような壕を嘉数高台の斜面に沿っていくつも掘っていたようで、かなり大規模な陣地を作っていたようです。しかし、現在では、その跡はほとんど残っていません。嘉数高台の中には、頭石を乗せて二列で参るくらい広く、走れるくらい長さの壕もあり、たようです。また、このような壕は、周囲の壁や屋根に木を切った原木を並べ、補助していたようです。

編集後記

今回新聞を作ってみて、戦時中の人々の苦しみ、そして、今の私たちの幸せを改めて気づきました。何かあったとしても戦争は、自分はいけないうるのだと感じ、自分の普段の生活で、何かできることがあれば、今も貧困などで困っている人の力になつてあげたいと思いました。また、今回の平和学習で、学んだ知識を多くの人に伝え、あの時のことを忘れずに、うけついでいきたいと思います。